

◆技術改良試験（重点普及課題）

モズク安定供給対策等事業

水産業改良普及センター 與那嶺盛次

1. 目的

沖縄県のモズク養殖生産量は、平成18年に2万トンと過去最高の生産量を記録した。しかし、これまで生産量が安定せず需給バランスの崩れによる値崩れや値段の高騰が沖縄県のモズク振興策の妨げになっており安定生産による価格の安定が課題となっている。安定生産にむけた技術的な課題を改善することを目的とする。

2. 活動内容

（1）培養技術の普及

沖縄県では、モズクの種を培養し、希望する生産者に配布しているが、配布後の拡大培養時に調子が悪くなることもあり、そのまま種付けを行い失敗することがある。そのため、培養種の拡大培養技術及び採苗方法の普及のための巡回指導を行う。

①実施地区：本島中南部地区

漁協への種苗配布の文書通知を行い、普及センター本所では8月6日より配布を実施した。オキナワモズクは知念村漁協、糸満漁協、那覇市沿岸漁協、読谷村漁協、久米島漁協、知念漁協奥武島支所、那覇地区漁協、与那城町漁協、勝連漁協、沖縄市漁協10漁協の養殖グループや漁業者に合計152ℓを配布した。

イトモズクは知念村漁協、久米島漁協、知念漁協奥武島支所、勝連漁協4漁協の養殖グループや漁業者に合計76ℓを配布した。

オキナワモズクとイトモズクの培養種は、水産海洋研究センター須藤研究員の協力によりプラスチック内で発芽試験を行い、発芽した久米島産、本部産、伊是名産の種を拡大培養して使用した。

種培養指導は、読谷村漁協モズク養殖部会、

知念漁協奥武島支所モズク生産部会、那覇市沿岸漁協漁業者、久米島漁協モズク生産部会等に行った。

②実施地区：本島北部地区

普及センター本部駐在では、金武漁協、宜野座村漁協、伊是名村漁協、伊平屋村漁協、伊江漁協、本部漁協、名護漁協辺野古支部、国頭漁協、羽地漁協9漁協の養殖グループや漁業者にオキナワモズク培養種を68ℓを配布した。

また、金武漁協、宜野座村漁協、伊平屋村漁協、名護漁協辺野古支部、本部漁協、伊是名漁協6漁協の養殖グループや漁業者にイトモズク培養種31ℓを配布した。培養途中に培養室の停電トラブルにより本部漁協の我部名誉指導漁業士から培養中のオキナワモズク種を譲り受け、駐在において培養し直し国頭漁協、今帰仁漁協、伊是名漁協分を配布した。

なお、来年度から培養種は漁協単位で配布し、配布量は配布部署において判断する。

（2）培養種による種付け技術の改良

①種付け密度試験

本島伊平屋地区で実施、別添にて報告。
八重山地区で実施、別添にて報告。

②養生環境の調査

本島伊平屋地区で実施、別添にて報告。

（3）人工苗床法の技術普及

本島本部地区で実施、別添にて報告。
宮古地区で実施、別添にて報告。
八重山地区で実施、別添にて報告。

（4）中層張り技術の普及

本島久米島地区と伊平屋地区で実施、別添にて報告。